



スリランカ仏教の潮流

福田 孝雄
(駒大非常勤講師)



善光寺方丈黒田老師の長年に亘り取り組んでこられた留学僧育英会の事業が、国際的に高い評価を受けてきた。今般、スリランカの権威ある財団から特に選ばれて、表彰されたことは、まさにその証左であろう。

ここで、仏教国スリランカの歴史を仏教史の面から、ご紹介しよう。

スリランカの歴史書は『ディーパワンサ』（島史）、『マハーワンサ』（大史）、『チューラワンサ』

(小史)、及びその注釈書が中心である。それらによると、ブツダは在世中二度スリランカを訪れたと言う。(一)同島中央部のマヒヤンガナを訪れ、ヤッカ(夜叉)の集団を追い払った。(二)次に北部ジャフナ近くのナーガディーパ島で、王達の紛争を止めさせるため訪れた。(三)カリヤーニ地方(コロンボ郊外のケラニヤ)の統治者ナーガ王の招請によるものと言う。以上三つの地は聖地として、現在篤い信仰の対象となつて

いる。この仏足跡の由来は、神話的領域に属し、史実とは言えない。

スリランカに仏教が伝来したのは、デーワナーナムピヤティッサ即位の翌年である。インド統一最初の王アソーカの即位十九年に、アソーカ王の王子で出家したマヒンダ長老と四人の比丘及びマヒンダの甥の沙弥シヤミ（少年僧）スマナが、首都アヌラーダプラの近郊の山に來た。王はアヌラーダプラに大精舎（僧院）を建立し住せしめ、王自ら帰依し人々にも帰依させた。この大精舎に伝來した上座部仏教は、現在まで存続している。その後インドから仏舍利を請來、塔園に塔を建て崇拜し、ブツダゆかりの菩提樹も貰い植えたと言う。

ワツダガーマニ・アバヤ王（B.C四三年頃）の時代、正法伝持の目的で聖典の書写が行われた。この王はマハーティッサ長老のために新たにアバヤギリ（無畏山）に寺を建て、その弟子達が

そこに拠って一派を立てた（無畏山寺派）。この王の將軍ウツティヤがダッキナーギリ（南山）に新寺を建立、後にこの住僧が一派を立てるようになる。

インドに大乘仏教が興り、三世紀前半頃にスリランカにも伝來した。三世紀後半在位のウォーハラーカ・ティッサ王が方広派（大乘派）を、大臣カプラに破摧させた。ゴーターバヤ王の時、無畏山寺派の方広派六十人を対岸に放逐したと言う。その後、マハーセーナ王の時、方広派の一人サンガミッタ長老の進言により大精舎寺が破壊され、無畏山寺に移されて無畏山寺派は隆盛を極めた。

次のシリ・メーガワンナ王は敬虔な仏教徒として無畏山、大精舎兩寺を資助し、インドより仏牙（齒）を請來し王宮内に奉安した。以後仏牙はスリランカの至宝、特に正統の王のシンボルとされた。中国僧法顯三蔵はインド巡歴の帰

途^{A,D}四一〇—四一二年の間に来訪『仏国記』に、
仏牙の無畏山寺での祭について詳述している。
法顯三蔵はスリランカで得た弥沙塞律^{ミシャソク}、長阿含、
説一切有部系の雜阿含などを中国に将来してい
る。

五世紀中頃、大註釈家ブツダゴーサが、大精
舎伝の教義を整理しヴィスッテイマツガ（清淨
道論）を著わし、パーリ語の沢山の註釈書類を
も書いた。

唐の玄奘三蔵法師は^{A,D}六三八年頃南インドを
巡歴し、スリランカについて耳にしたことを『西
域記』に記している。ダートーパティッサの晩
年からカッサパ二世の初め頃、仏教の迫害があ
った。王統史の作爲的変更により、カッサパ二
世以後釈尊入滅年代は^{B,C}五四四年となり、現在
南方仏教ではこの説に従っている。

八世紀初め密教を中国に伝えた南インドの金
剛智三蔵が、またその弟子の不空三蔵も、スリ



シーギリヤ・ロックから見たジャングル

ラカの地に足跡を残している。一時、密教がインドより伝来、盛んになったこともあった。十世紀―十一世紀インドのチョーラ国の侵入で、仏教は衰退した。十一世紀後半ヴィジャヤバーフ王はラーマンニヤ（現ミャンマー）王アノーラタに依頼して、三蔵に通暁の高徳の僧を招聘、仏教復興に尽力した。その後、上座部仏教が勢力を回復した。十二世紀から十四世紀にかけて、スリランカの王室も仏教も受難の時代であった。

一五〇六年初めてポルトガル人がコロンボに来て欧州人との交渉が盛んになった。一六五〇年頃からはオランダがポルトガルに代って、コロンボを中心とする海岸一帯を領有した。その間一五九二年即位のヴィマラ・ダンマ・スリヤ王は、ミャンマーのアラカン地方から長老を迎え上座部仏教復興をはたし、シリヴィジャヤ・ラージャシーハ王、キッティシリ・ラージャシ

ーハ王などが、ミャンマーやタイから仏教を逆輸入して復興をはかった。一八一五年にスリランカは英領となったが、その後も上座部仏教の牙城として存続し今日に至っている。十九世紀後半に西欧人の仏教の「発見」により仏教研究が盛んとなり、パーリ語仏典の整理編纂の事業が活発に行われ、リス・ディヴィス夫妻やオルデンブルクの偉大な業績が陸続として世に出された。

上座部仏教ないしテーラワダ（長老派の意味）はブッダの直接的説法の記録と伝えられるパーリ語仏典を奉じ、戒律の遵守を徹底し僧侶は完全出家制である。第二次世界大戦後、独立国家となった。現代のスリランカでは仏教が国家的存在として国家統合から個人々の心の平安などに至るまで、集団と個人のあらゆるレベルで重要な役割を果している。